

2月27日（日） 第三回ワークショップ

『どんなまっぷにするのか みんなで考えてみよう』

第3回目の目標は

- マップに載せる情報を決める
- マップのデザインを決める
- マップの名前を決める です。

コーディネーターをお願いしている、会田さんも参加しまっぷをどうするのか・どの方向に導くのかを考える最終段階です。



自分たちが散策し、見つけてきた面白ポイントが他の班にはどう見えるのかを意識しながら、最終的にまっぷに載せる情報を決定します。まっぷに面白いエッセンスを集約します。



各班が探してきたポイント・情報をポストイットカードにコピーし、最終的に1枚のまっぷに張っていきます。

このマップ作りで参加者の皆が感じたことは

商店街周辺は『面白さの宝庫』

店主の『話』は面白い

商店街には『いろいろな歴史』がある

ということです。

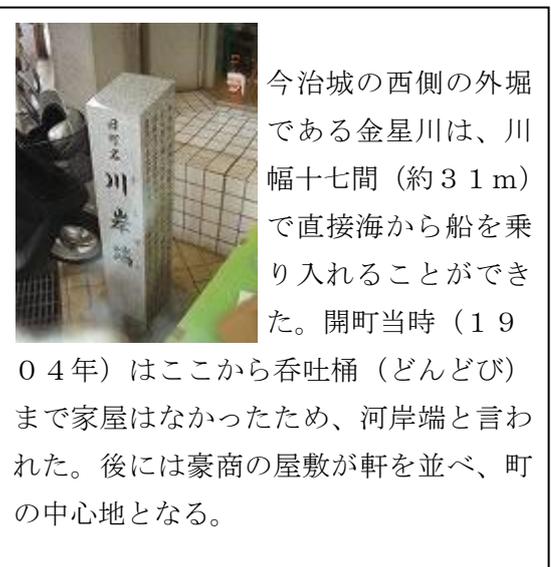
これらをまっぷを手にした人に伝えるため、4つのジャンルわけを行い、情報を整理しました。

1. 見た目の面白さ
2. 通り・地名・町の由来・・・歴史
3. お店のなんで？・・・お店の人に聞くとおもしろい
4. なんで？・・・構造・形

1. 見た目の面白さ



2. 通り・地名・町の由来・・・歴史



3. お店のなんで？・・・お店の人に聞くとおもしろい



4. なんで?・・・構造・形



銅版・・・ぴかぴかして目立つから。
縁起がいいと思って。3代目の屋根



3年から5年前に舗装しなおしたときに
できた。
なぜここに方角を示すものがあるかは不
明。
エピソードを創るのもいいのでは

以上が各班で選抜した面白ポイントです。

この後どんなまっぷにしていくのか?について話し合われました。

会田さんからのお話として、「共感をうむ考え方」についてお話がありました。

共感してもらうための段階として、3つの段階があります。

第一段階として、《目に見えている情報》写真にとれているもの

第二段階として、《情報》知らないとわからないこと

今回のまっぷにおいては、歴史に関係することや人に聞いたら面白い
ものなど。しかしこの二つは分けて考える必要がある。

第三段階として、《解釈》1つではない

私にはこういう風に見える。今治がこんな風に見える
といった形でまっぷを手にした人にゆだねる

これらをちゃんと区別し整理して、商店街周辺のオリジナルのまっぷを作り上げる
必要がある。

各班で話し合われたまっぷについての意見

- ・見た目の面白さ どこにあるか散策するまっぷ ・地名の由来てきなもの古い写真・栄えていたころの写真
- ・当時を表したイラストを掲載し、現地確認したくなるまっぷ
- ・人物 人物を紹介するかんたんな文章を掲載し、本人に会いたくなる、もっと聞きたくなるまっぷ
- ・平成22年度版はこうです。といった形でいろんな意見が反映されるまっぷ
- ・透明なシートで入れ替え可能なものに
- ・市民のためのもの・・・情報量をしぼる
- ・構造物 こうみえているというなげかけ

まっぷの名前

—不思議・秘密 知りたくな〜る—

行ってこうわい いまはる (「まっぷ」については記事にする場合入れる)